

岸和田港塔原線（２）

地元、岸和田市土生町に住んでいる者です。どうぞよろしくお願いいたします。

このたび大阪府では、大阪府建設事業評価委員会ができましたことを心からお喜び申し上げたいと思います。また、本席において私、地元の要望事項として意見を述べさせていただくことをありがたく感謝しております。大変恐縮で光栄と思っております。

さて、地元で生活している私でございますが、岸和田港塔原線の鉄道立体交差の実現を心から願う者として意見を述べさせていただきます。

私は、平成７年地元町会の地区協議会の代表でございますが、鉄道立体交差事業の実現について、大阪府や岸和田市に書面にて要望させていただきました。そういうこともございまして、このたびこういう機会を与えていただきましてありがたく思っております。

J R 阪和線南 1 番踏切につきましては、以前から道路の交通停滞が慢性状態でございます。市民生活に大変な悪影響を及ぼしていたということでございます。さらに平成 6 年、関西国際空港ができて、「はるか」等空港特急、快速等増便化され、踏切の遮断時間がなお一層、長くなっております。それから地元住民にとりましてさまざまな悪影響を及ぼしております。もちろん公害問題もあるわけでございますけれども、それは別としまして、私は地元としてどのような問題があるかということにつきまして具体的に述べたいと思います。

委員の先生方は現地を見ていただいたということをお聞きいたしました。既に東岸和田駅では快速停車駅として岸和田市内に公立高校、私立高校、もちろん中学校、幼稚園、保育所等がございます。会社への通勤、なおかつ岸和田税務署もでございます。府では、府民センター、それから土木事務所を始め、岸和田警察等も近くでございまして、通勤しておられます。そして、逆の方向につきましても、東岸和田から市内の方向に通勤されております。また、あるいはショッピング等も含めまして、娯楽のために使用されております。

阪和線としては、東岸和田駅につきましては、泉南地域で最も重要な駅にもなっております。失礼とは思いますが、東岸和田駅の環境は、現在でも非常に悪くございます。駅の改札口は東側のみでございます。トイレはいまだ男女共用というような汲み取り式のトイレでございまして、なお、ホームにつきましても大変狭くございます。急な階段でもございます。それから老人、子ども、身障者などに配慮の欠けたものとなっております。鉄道から見ても、必要な事業ではないかと思っております。

地元の町会といたしまして、岸和田港塔原線と J R 阪和線により 4 分割されており、それぞれ分割された地区には、駅前、住宅、パチンコ屋、映画館、商業施設、専門学校、幼稚園、保育所、府立の岸和田養護学校、少し離れば先ほどの府立高校などがございます。双方の踏切を利用しております。

地域では幹線道路の通過交通や、沿道利用による自動車の停滞はもとより、いろいろな人が徒歩や自転車、乳母車、車いす、多くの方法で、なおかつ入り乱れて縦横断しております。踏切の遮断機はすぐおりますので、危険であるにもかかわらず、我先に渡ってしまいます。踏切であるため、道路の信号もできません。大変危険な状態でございます。また、タクシーを利用すれば、停滞のため時間がかかり、料金が高くなり、通院のために利用し

ているお年寄りを始め、多くの市民の負担を重くしています。

岸和田港塔原線はバス路線になっています。南海電車岸和田駅より、山手、葛城山のふもとまで、また天神山方面の府営住宅、公団住宅等もバスが通っております。踏切による道路の停滞と踏切遮断のため、利用者にとっては大変な不便を感じております。バス停滞でバスに乗るより徒歩で駅に向かった方が早いというような状況でもございます。山側から来れば、踏切の手前で止まり、手前では、バス規定によりまして途中下車もできません。そういうこともございまして、停滞はあるものの、駅に行くには、まだましですが、例えばトークタウン、市役所、会社通勤、南海電鉄への乗り継ぎ等もバスによる時間が非常に不便を感じております。反対方向も同じでございます。

また、踏切では、救急車、消防車、パトカーなど緊急車両も通れません。サイレンを鳴らしても電車は止まってくれません。何があっても鉄道が優先でございます。関西国際空港2期を初めとして、泉州地域はますます発展してきますが、それに伴い列車の本数は多くなり、鉄道の輸送が多くなればなるほど地元の生活環境は悪化していきます。

岸和田港塔原線の混雑は、周辺的生活道路への迂回交通を生み、町内の細い道路も停滞し、個々の小さな踏切も停滞して、非常な危険状態でございます。特に危険なのは、遮断機が一瞬上がり、すぐおりるといときです。遮断機が上がると、車も人も一斉に踏切を渡ります。子ども、老人、身障者、ベビーカーでは渡り切れません。子どもたちが団体で渡っている場合など、途中で取り残される子どもができて、遮断機が下がっても渡ろうとしています。

地元で踏切の過去の事故につきまして、私は鮮明に覚えております。道路が狭い関係もございました。その関係上、たまたまお年寄りでございましたけれども、遮断機の前に止まっているダンプカーの前に老人が立っていて、ダンプカーの運転席が高かったのが見えなかったという状況でございまして、そのままひき殺してしまったという事例がございます。私はその現場にたまたまおりまして、本当につらい思いもいたしました。

そして、岸和田はだんじり祭りです。一般には南海の岸和田、浜側のだんじり祭りが有名ですが、東岸和田では、土生町でございまして、約3,000所帯、1万人の土生町にだんじりがございます。現在、踏切のため、同じ町内会をだんじりが回ることもできません。鉄道高架になれば、だんじりが通行可能になることでわかるように、分断された四つの地域が一体となって、最もネックになっているこの踏切付近が交流の中心となっていくものと考えます。

最後に、周辺的生活環境の安全や向上を考えた場合、鉄道を上げていくことにより、岸和田港塔原線の交通停滞をなくし、これを機会として地元の特色あるまちづくりにつながっていくようよろしくお願いしたいと思います。